

編集後記

今回のテーマは、「総合評価方式」です。

これについては、以前（No.57）にも触れた。我々の生活に密着する下水道など構築のため、自治体は公共工事を発注する。当然、予算の範囲内で、できるだけ良質、上質なものを望む。ならば、工事の受注業者の選定は最重要命題だ。価格だけでは判定できない。これは、我々の日々の買い物と同じだ。なにも、値札だけ見て買っている訳ではない。購入しようとする商品の本質（品質）を入念に調べ、価格に見合うか、希望に沿うか、買うことに満足感、充足感を味わえるか、など慎重に検討し、最後に決断し、財布の口を開く。これが買い物の醍醐味であり、楽しみでもある。この買い物プロセスが好きな人は、品を見定める眼も確かだ。真に良質な公共工事を求めるプロセスも、同じでなければならない。それを適正にかつ徹底することで、社会資本の本来の購入者である住民、国民の満足、利益に繋がる。

前回は、今から2年半前のこと。「公共工事の品質確保の促進に関する法律（品確法）」の施行（H17.04）から間もない頃で、総合評価方式の導入に、とまどいを感じた公共団体

の担当職員に、緊張し力んで大上段に構えることなく、自然体で業務に当たってください、自分が一市民としてする買い物と同じですから、というエールのつもりだった。

それからしばらく様子を見てきたが、どうもしっくりしない。確かに、国の直轄工事を対象にいくつかのガイドライン、マニュアルが作成され、実施事例も増えた。下水道工事などの補助事業についても、国の方式を下敷きに丁寧な手引きも示された。ちなみに、下水道事業を見れば、平成19年度での総合評価方式による工事入札件数は452件に上る。そのほとんどが“簡易型”で、対象が年間全件数の2%程度に止まるとはいえ、かなりのインパクトを与える事象だ。だが、残念ながらその反響が聞こえてこない。発注者（評価者）からの自信に満ちた満足感が伝わってこないし、受注者（被評価者）から勝者としての達成感も伝わらない。聞こえるのは「ただ、ただ、疲れました」「時間と労力だけは十分使いました」「労多くして何やら…」といった徒労感が漂うため息に近いものばかりだ。おかしいではないか！本来、楽しい買い物であったはずなのに…。

評価する方もされる方も、本質でない変な所に“力み”があり、肝心な所に力が入っていない結果ではないか。構えとバックスイングに“力み”があり、インパクトに力が入らない、正に、ビギナーのドライバーショットだ。これでは、ティーショットの方向性も飛距離のままならない。初心者の段階で身に付いてしまった悪い癖は、回を重ねてもなかなか抜けないものだ。初心者のうちは、まず意識して基本に忠実であるべきだ。

では、公共工事に総合評価方式を導入した基本目的は何であったか。公共工事の入札契約において、落札者の決定は“価格勝負”のみだった。その原点は、明治22年に制定された「旧会計法」だ。現会計法の基本も同じ。だが、時代が昭和、平成に下り、価格一本勝負の弊害が見えてきた。談合、汚職、工事丸投げ、手抜き工事、社会資本の品質低下、安全社会の崩壊…。

その救世主が「総合評価方式」の導入であった。次回に続く。

〈編集委員長 石川和秀〉



No.67 2009 Apr. 平成21年4月1日発行

編集：「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所：日本非開削技術協会

〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-18
西村ビル3F

TEL.03(5639)9970 FAX.03(5639)9975

発行人：松井大悟

印刷所：株式会社 LSプランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料（税込み）

1冊 1,500円（本体1,429円）〒400円

1ヵ年（4冊）6,000円（本体5,716円）〒1,600円

◇発行

年4冊：1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会にて選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。